

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立東山小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
足利市立東山小学校	<a href="https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/">https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/</a>	<a href="https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/">https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/</a>

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「【教育課程特例校】特別の教育課程の実施状況等について（足利市）」を参照。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

### (3) 自校における評価

- 第1学年から英会話学習を積み重ねていくことにより、簡単な英会話を聞き取ったり、答えたりすることができるようになってきている様子から、コミュニケーションの基礎的な能力の育成につながっている。
- 身近な場面を想定した英会話を使うことで、低学年から英語に慣れ親しむことにつながっている。特に低・中学年では、英会話学習を楽しみにしている児童が多い。
- 第1学年から英会話学習を実施することで、外国語や外国の文化に触れ、ALTやEAAとコミュニケーションを取ろうとするなど興味・関心をもって学習している。
- 5・6年の「英語チャレンジDAY」では、様々な国に関するアクティビティーを通して、友達同士や、ALTやEAAとのコミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

### (4) 学校関係者による評価

#### <児童>

- 英会話学習への抵抗感は感じられない。
- ALTやEAAとの活動では、よく聞き、発音をネイティブに近づけようとする姿が見られる。
- 低学年では、歌やジェスチャーを通しての簡単な英語の発音やリズムに触れるところから始めるので楽しそうに取り組んでいる。中・高学年では、興味・関心が分かれてきているように感じられる。

#### <保護者>

- 第1学年からの英会話学習の成果として、英語によるコミュニケーションの基礎的な能力の育成につながっていると思っている。
- 第1学年からの英会話学習の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思っている。
- 第1学年からの英会話学習の実施によって、外国語や外国の文化に対する興味・関心が高まっていると思っている。
- 英語に触れる機会が少ないので、毎日の学校生活の場面で、少しでも英語を身近なものにしてほしいとの意見もある。

## 4. 実施の効果及び課題

- 第1学年からの英会話学習の実施によって、コミュニケーションを取ろうとする意欲につながっており、その結果、コミュニケーションの基礎基本が身に付いてきている。
- 高学年では、外国語が教科になり、「読むこと」「書くこと」にも力点がおかれるようになったこともあり、苦手意識をもつ児童が見られる。

## 5. 課題の改善のための取組の方向性

- 英語でコミュニケーションの楽しさを味わわせるための雰囲気づくりを大切にし、視覚的教材などを積極的に活用し、児童の実態に合わせてながら意欲づけをしたり、支援をしたりすることが大切である。

